

DAISHINKU

CSR レポート
2018



信頼

私たちは経営理念である“世界中すべてのお客様に「信頼」でお応えする。”を礎として、誠実かつ公正な事業活動による持続的成長を通じて継続的な利益の創出と社会貢献を実践し、企業価値を向上させるとともに、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

◆「ものづくり」を極める

私たち大真空はエレクトロニクス社会の発展に貢献したいとの思いから、「想像と創造」という「ものづくり」精神を掲げ、研究開発を行ってまいりました。お客様の満足度をより高めるため「より良い製品をより安くより早く」をモットーに、これまでに培ってきた製造技術やノウハウを活かし、さらなる進化を目指しています。

お客様から「信頼」を得るには、メーカーとして製品品質の向上は欠かせません。私たちは部品メーカーとして、設備や人材育成などさまざまな側面から永遠の課題であるZero Defect(不良ゼロ)に改めて取り組み、お客様に満足いただける「ものづくり」を極めてまいります。私たちが開発した第3世代の水晶デバイス「Ark.3Gシリーズ」は、使用部材の削減や製品サイズの小型／薄型化などの環境面に加え、ウェハレベルパッケージを採用することにより、真空中でウェハ洗浄から貼り合わせまで行えるため品質リスクが低減でき、品質面でも優れた製品であると自負しています。

また、環境保全活動を重要な経営方針の一つと捉え、水晶デバイスの開発、製造、販売などすべての企業活動領域において、①環境負荷物質削減などの「製品の環境配慮」、②地球温暖化防止や廃棄物削減などの「事業活動での環境配慮」、③各拠点における地域貢献活動の「コミュニケーション」、④グループ内環境経営体制の構築や環境教育などの「環境経営」を四つの環境ビジョンとして定めており、地球環境保全に対する取り組みを推進しています。

◆「ひとづくり」を極める ～「人材」から「人財」へ～

真のグローバル企業として継続的に発展するため、「健康経営の推進」や「多様な人材の採用・活躍の推進」などを基盤とした、「人財マネジメント」に積極的に取り組んでいます。国籍・人種・性別などを問わず、一人ひとりの能力を発揮できる環境を提供し、独自の教育プログラムに基づき自助自立・自己完結を基本として行動できる「人財」を育むとともに、各地の文化や地域性に根付いた活動をさらに強化し、これまで以上の成果に繋げるべく「ローカライゼーション」を推進しています。また、経営理念の共有や各拠点とのより強固なコミュニケーションを醸成するための橋渡し役となる「ブリッジ人財」の育成にも注力しています。

一方、自己啓発プログラムによる個々のキャリア形成のサポート体制も充実させており、教育／育成と合わせ活躍するフィールドをさらに広げることで、めまぐるしく変化する環境や市場ニーズにお応えしてまいります。

◆ステークホルダーのみなさまへ

1959年の創業以来、私たち大真空は「信頼される人」「信頼される製品」「信頼される企業」という三つの「信頼」の理念のもと、高度化する時代のニーズに応える製品づくりに励んでまいりました。これからもCSR活動を通じてステークホルダーのみなさまとコミュニケーションを深めながら、新たな価値を生み出し、経済・社会・環境の側面から継続的な社会の発展に貢献し続けることができる企業を目指してまいります。

代表取締役社長 長谷川宗平

CSR報告書発行にあたって

大真空は2016年より労働、人権、顧客、品質、社会貢献など企業価値の向上と、持続可能な社会の実現に向けての取り組みをステークホルダーのみなさまと共有したいと思い、「CSR報告書」としてまとめています。

本報告書を通してステークホルダーのみなさまに私たちのCSR活動についてご理解いただくとともに、今後のCSR活動の参考にさせていただきたく、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

対象期間

2016年4月～2018年3月の活動を中心に作成しています。
(当該期間以前もしくは以後の活動も報告内容に一部含まれています。)

目次

- 1 |

3 |

5 |

7 |

9 |
- トップメッセージ

CSR報告書発行にあたって

目次

会社概要

水晶デバイスについて

大真空グループのCSRについて

コンプライアンスについて
- 11 |

12 |

15 |

17 |

19 |

24 |

25 |
- コーポレートガバナンスについて

お客様とのかかわり

お取引先様とのかかわり

社員とともに

環境とのかかわり

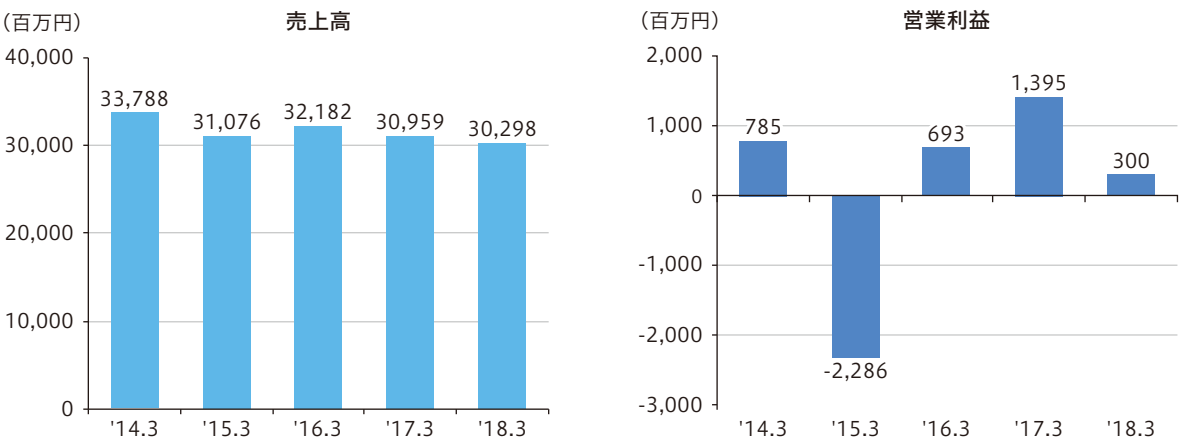
株主・投資家のみなさまへ

地域社会とのかかわり

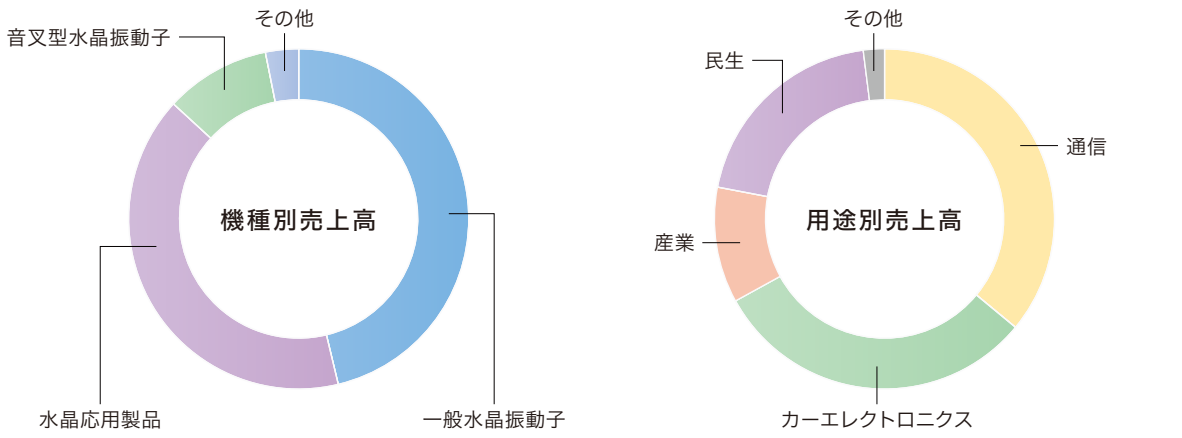
会社概要

商号	株式会社 大真空
本社所在地	兵庫県加古川市平岡町新在家 1389
業種	電子部品および電子機器の製造販売
創業	1959年11月3日
設立	1963年5月8日
代表者	代表取締役社長 長谷川 宗平
資本金	193億44百万円
従業員数	単体 643名 連結 4,044名(2018年3月31日現在)

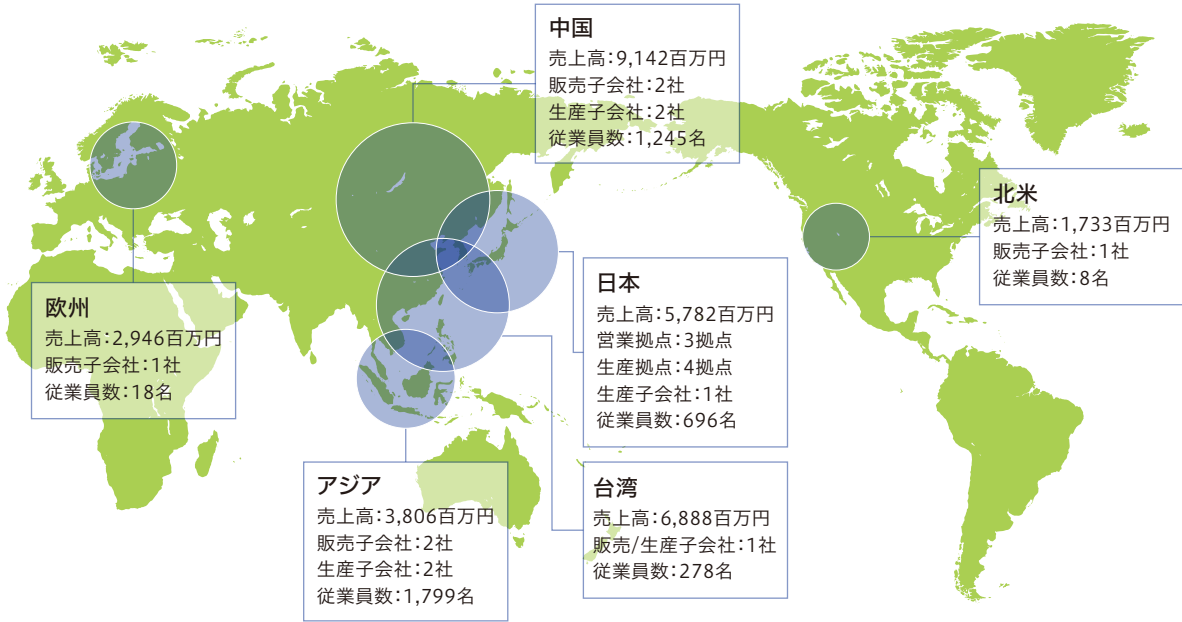
業績の推移



販売の状況



地域別の状況



※業績の推移、販売の状況、地域別の状況は2018年3月期連結決算より

水晶デバイスについて



「より良い製品をより安くより早く」をモットーに、常に高い品質を維持する水晶デバイスを安定的に供給する効率的な生産システムを構築しています。

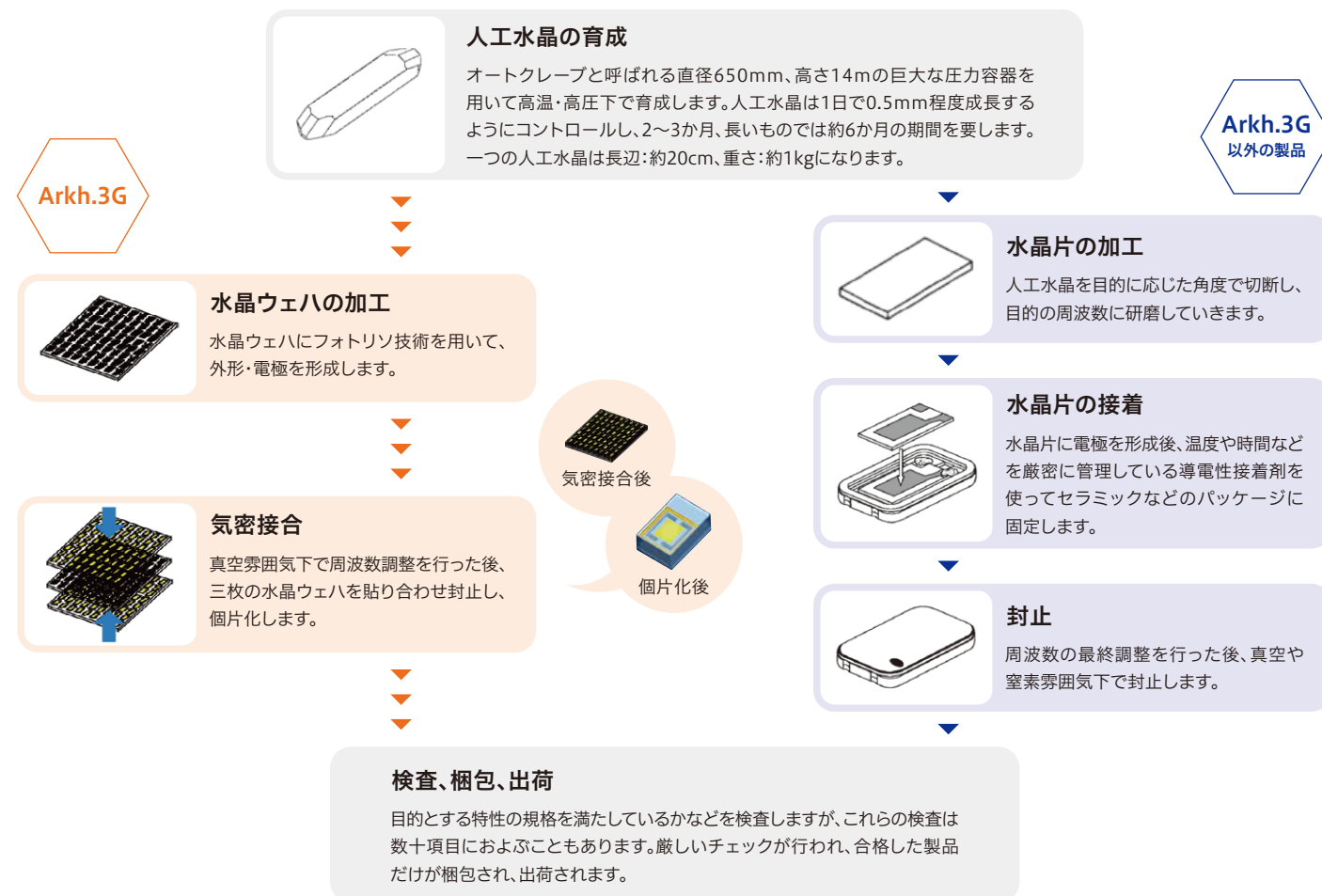
大真空では高純度な人工水晶の育成から、切断、研磨、そして製品の組み立て工程まで一貫した生産体制により、世界中のお客様のニーズに迅速にお応えしています。

「水晶デバイスって何？」

水晶は圧力を加えると電荷を発生するという性質を持っており、「圧電現象」と呼ばれています。逆に、電圧をかけると変形する性質もっており、「逆圧電現象」と呼ばれています。この逆圧電現象を利用して、水晶デバイスは規則正しい安定した信号を作り出し、私たちの暮らしを支えています。

水晶デバイスは、スマートフォンなどの情報通信機器、ハイレゾオーディオなどのAV機器、自動車など、私たちの生活に身近な電子機器に使われています。例えばスマートフォンは世界中の人たちとコミュニケーションを取ることができ、いつでもどこに居ても欲しい情報を入手することができます。この便利なスマートフォンは、電波を使って音声や情報を送ったり受けたりしています。この電波のもととなる基準信号を正確に、安定して作り出している部品が水晶デバイスなのです。

水晶デバイスができるまで



製品紹介

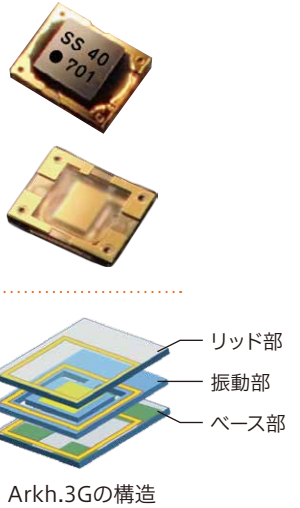


◆ Arkh.3G (アークスリージー)

「従来品比1/2の厚みを実現した次世代水晶デバイス」

セラミックパッケージに導電性接着剤を用いて水晶片を保持するという従来の構造に対し、Ark.3Gでは水晶を母体とした「リッド部」、「振動部」、「ベース部」からなる三層構造となっており、水晶振動子、一般水晶発振器 (SPXO)、温度補償水晶発振器 (TCXO) をラインアップしています。

フォトリソプロセスにて振動部などの外形を形成し三枚の水晶ウェハを貼り合せて、それを個片化するというウェハレベルパッケージとすることで、導電性接着剤を用いない保持部と振動部の一体構造を可能としています。また、真空中でウェハ洗浄から貼り合せまでを行うことで品質リスクを低減することができます。これらにより、自動運転をはじめとする高信頼性が必要な車載用途やSiPモジュール、ICパッケージへの内蔵など、水晶デバイスの新たな実装シーンを想定した価値を提供してまいります。



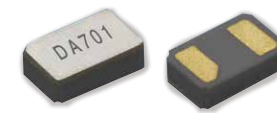
◆ 水晶振動子

温度特性が良好な高周波振動子です。パッケージの種類やサイズが豊富で幅広い用途に対応しています。



◆ 音叉型水晶振動子

低消費電力の低周波振動子です。主に時計やあらゆる機器の時計機能に使われます。



◆ 水晶発振器

駆動ICが組み込まれた発振器モジュールです。一般水晶発振器 (SPXO)、電圧制御水晶発振器 (VCXO)、温度補償水晶発振器 (TCXO) などがあります。



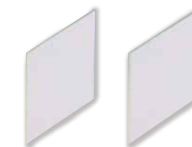
◆ 水晶フィルタ

特定の周波数成分のみを通過させる周波数選択機能を持つデバイスです。無線通信機器に多用されています。



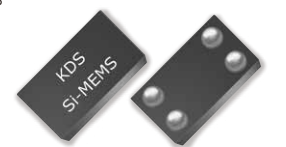
◆ 光学製品

水晶の複屈折性を利用したOLPFや波長板などの光デバイスです。誘電体多層膜を利用した分光特性の制御も可能です。



◆ MEMS発振器

MEMS技術と回路技術を組み合わせ、振動部分がシリコンで形成された発振器です。パッケージサイズの小型化を得意としています。



大真空グループのCSRについて

「信頼」を合言葉に、すべてのステークホルダーを志向した創造的かつ効率的な経営を実現して、継続的に利益を創出するとともに社会貢献に努めます。

CSRコミットメント

三つの信頼

● 信頼される人

私たちは、自助自立・自己完結を基本として行動し、自分たちの持てる力を社会全体のために活用し、関係するすべての事柄に対して真摯な態度で取り組みます。

● 信頼される製品

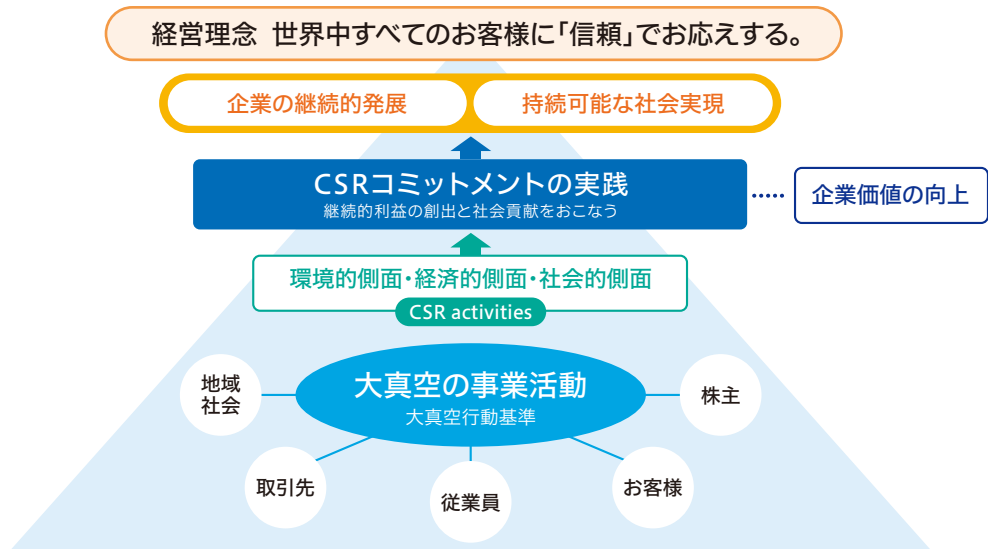
私たちは、すべてのお客様に対して、持ち得るすべての力を集結して、常に最良の製品やサービスを創造し、全世界に提供することによって人々の豊かな生活の実現に貢献します。

● 信頼される企業

私たちは、法令およびその精神を遵守し、地球環境との調和を常に意識した企業活動を通じて、継続的な利益の創出による社会貢献を目指します。

三つの信頼を実践する行動基準

- 1 会社の経営方針、経営理念、経営施策を正しく理解認識し、個人の利害損失にとらわれることなく、会社や社会全体の利益を考えて行動します。
- 2 固定観念や慣行に支配されず、着想から課題解決まで一貫した論理的展開をします。
- 3 折衝や調整などを円滑に行うため、必要に応じて随時関係者と話し合いをしており、問題発生の場合は誠意をもって解決にあたり良好な関係をつくりあげます。
- 4 困難な問題でも、相手の立場を理解しながらも、粘り強く方針を説得し、円滑に対処します。
- 5 環境適合の視点を常に忘れず、メインテーマの一つとした活動をとります。
- 6 いかなる場合でも、自信の裏づけと最後までやり通す気概をもって事にあたります。
- 7 人柄、人間的魅力が周囲から受け入れられ信用されるよう努めます。
- 8 良好な人間関係づくりに努め、時には他人の弱さをも受け入れる勇気を持ちます。
- 9 法令をはじめ諸規程さらには確立された社会規範も含めてあらゆるルールを遵守するとともに、情報の重要性を認識し情報セキュリティにも努めます。
- 10 社会の一員として常に良識ある行動をとります。



大真空グループCSR行動規範について

大真空グループは、三つの信頼に則り、関係する法令の遵守および企業倫理を励行し、経営理念に合った企業活動を行うとともに、社会からの期待や要請に常に目を向け、信頼される企業を目指します。これを踏まえ、人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、安定供給、社会貢献において「CSR行動規範」(URL: <http://www.kds.info/company/csr/>) を定め、すべての役職員に対し周知および浸透を図り、誠実に実行しています。

I. 人権・労働

- I-1 人権の尊重・差別禁止
- I-2 児童労働/強制労働の禁止
- I-3 非人道的な扱いの禁止
- I-4 適正な労働条件・労働時間
- I-5 従業員の団結権

II. 安全衛生

- II-1 職場の安全衛生
- II-2 労働災害・労働疾病
- II-3 緊急時の対応
- II-4 施設の安全衛生
- II-5 身体的負荷のかかる作業への配慮
- II-6 従業員の健康管理

III. 環境

- III-1 環境への配慮
- III-2 環境マネジメントシステムの構築

IV. 公正取引・倫理

- IV-1 賄賂等の腐敗防止
- IV-2 反社会的勢力との関係遮断
- IV-3 契約の適切な履行
- IV-4 競争制限的行為の禁止
- IV-5 優越的地位の濫用の禁止
- IV-6 不適切な利益供与および受領の禁止
- IV-7 インサイダー取引の禁止
- IV-8 安全保障貿易管理
- IV-9 知的財産権の尊重
- IV-10 適正な情報開示
- IV-11 責任ある鉱物調達
- IV-12 不正行為の予防・早期発見

V. 品質・安全性

- V-1 品質マネジメントシステムの構築
- V-2 製品の安全性

VI. 情報セキュリティ

- VI-1 コンピュータ・ネットワーク上の脅威に対する防御
- VI-2 重要情報の適切な管理
- VI-3 個人情報の適切な取扱い

VII. 安定供給

- VII-1 事業継続計画(BCP)

VIII. 社会貢献

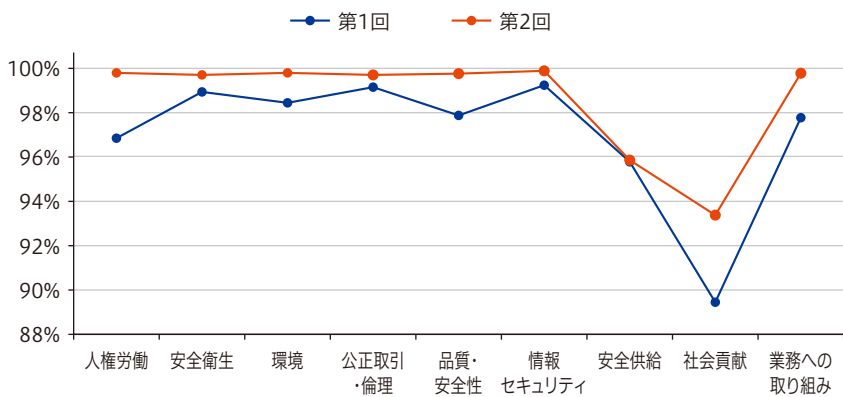
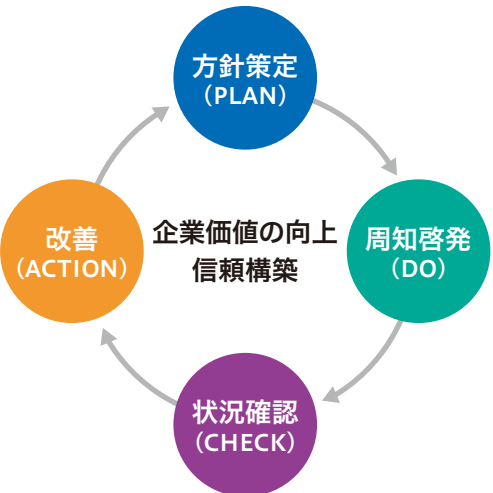
- VIII-1 地域社会等への貢献

「CSR行動規範セルフチェック」の実施

大真空グループでは、2014年10月に「CSR行動規範」を制定以来、「CSR行動規範」に対する意識を醸成し、浸透・定着を図るため、定期的に全従業員を対象とした「CSR行動規範セルフチェック」を実施しています。チェック内容には人権・労働をはじめとする行動規範の理解、実際の業務への取り組み姿勢や運用も含まれます。

チェックの結果はグラフに示されている通り、2回目は1回目を全体的に上回る結果となりましたが、安定供給および社会貢献の項目は他項目に比べて低い水準に留まっています。これらの原因を分析したところ、安定供給の項目における「事業継続管理」について、限られた部署の業務であると認識されていること、社会貢献の項目では「ボランティア活動」に参加できていないということが分かりました。

このように、「CSR行動規範セルフチェック」を通して集まった情報を基に問題点を抽出し、その改善策に取り組むことで、全従業員のCSRに対する認識をさらに高め、ステークホルダーのみなさまとより良い関係を築いてまいります。また、今後も「CSR行動規範セルフチェック」を定期的に実施し、CSR活動のPDCA サイクルを回してまいります。



コンプライアンスについて

社会からの期待や要請に適応するコンプライアンス経営を徹底します

大真空グループでは、企業が社会的責任を果たし企業価値を向上させるためには、コンプライアンスの徹底が必要不可欠なものと考えています。

関係する法令や社内規程を遵守することはもとより、社会からの要請や期待にかなった企業活動を行います。また、従業員一人ひとりが誠実かつ公正な事業活動を行い、社会から信頼され企業の継続的な発展および持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指していきます。

コンプライアンス教育の実施

コンプライアンス経営の基本となる法律知識やビジネスシーンにおける健全で実践的な判断基準を有する人財の育成が、コンプライアンスをより効果的に推進していくために重要であると考えています。

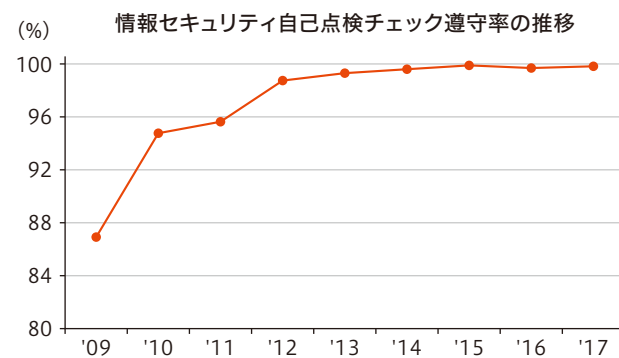
コンプライアンスの重要性を従業員へ周知し、さらなる意識と知識向上のためコンプライアンス教育を会社の人財育成プログラムに盛り込むなど、さまざまなかたちで実施しています。入社時教育や上位等級昇格時、管理職登用時など、グループディスカッションなどを盛り込んで各等級に応じた階層別での教育、毎年各拠点において、全従業員を対象としたコンプライアンス説明会などを行っています。

情報セキュリティの確保

事業活動を正常かつ円滑に行う上で、情報セキュリティの確保は最重要課題の一つであり、社会的な要請は今後も一層高まっていくものと考えています。

大真空グループは信頼される企業であり続けるために、情報資産の保護を目的とした「情報セキュリティ基本方針」や各種社内規程を定めており、各種情報の適切な取り扱いに向けたルールやシステムの整備と改善に取り組んでいます。また、従業員への啓発活動の拡充として、定期的な情報セキュリティ自己点検チェックによる意識改革を実施しており、機密情報の取扱いや不審メール受信時の対応、ウィルスが検知された場合の初動など開始時期から比較すると従業員の情報セキュリティに対する意識は年々高まっています。さらに従業員への研修も行うなど、適切な情報管理に努めています。

最近問題となっている標的型攻撃やランサムウェアなどのサイバー攻撃への対応としましては、クライアントやゲートウェイでのウィルス対策ソフトの導入、ファイアウォールによる侵入防御などの対策を行っています。さらにパターンマッチングでは検知できない未知のマルウェアに対し、振る舞い検知型のウィルス対策ソフトを導入するなど技術的対策の強化を行っています。マルウェアは常に進化しており技術的対策の強化は継続的に行う必要がありますが、技術的な対策だけで感染を100%防ぐことは不可能といわれています。最終的には人による判断が重要となってくることから、今後は防止だけでなく検出・対応の強化をテーマとしたルール作りと、従業員教育による人的対策の強化も進めてまいります。



インサイダー取引防止の徹底

株主・投資家保護や証券市場の信頼性確保のため、会社情報の適時適切な開示、適切な内部情報の管理に努めています。「インサイダー取引防止規程」の制定、入社時研修や月例会を利用した各拠点での教育など、インサイダー取引防止のための継続的な活動に取り組んでいます。

安全保障貿易管理の取り組み

●「輸出規制管理規程」の策定・届出

より確実な安全保障貿易管理の取り組みとして「輸出規制管理規程」を制定し、自主的に経済産業省に届出を行うとともに毎年規程の実施状況を提出しています。

●教育の徹底

安全保障貿易管理を確実に遂行するためには、従業員が必要な知識と管理手順を取得し、手順に則って対応することが必要不可欠です。大真空グループでは従業員の実務スキルアップを図るため、特に、営業担当者に対する教育を強化しています。また、安全保障貿易関連団体が主催している説明会などの情報を積極的に入手し、随時、関連従業員を参加させています。

●リスク対策の実践

大真空グループは、社内製品をはじめ、社外調達品を含むあらゆる輸出、外国への技術提供を安全保障貿易管理の対象としています。

(1) 該非判定のシステム化

該非判定を迅速かつ正確に行えるよう、社内製品については自動的に該否判定するシステムを構築しています。また、関連法令の改訂や新製品開発に伴うシステムの更新、規制条件に該当した案件が生じた際のプロセスを手順化しており、確認漏れや顧客納期に影響のない社内体制を完備しています。

(2) 定期監査の実施

貿易管理業務に関連する部署を明確にし、社内監査部門による定期監査を実施しています。定期監査において把握した課題の個別指導を行い、日々改善に取り組んでいます。

(3) ダブルチェックの実施

社外調達品または内製設備に対し、購買部門や生産技術部門が該否判定資料を基に該否判定を行った後、法務部門が当該判定結果を再度確認するというダブルチェック体制を構築しています。

●技術提供の安全保障貿易管理

技術者の海外出張および技能実習生へ技術提供する際、該否判定を実施しています。

反社会的勢力排除の取り組み

法令や社会的な規範に則した企業活動を推進しており、反社会的勢力との関係を持ちません。社会的な正義を実践するため「内部統制基本方針書」や「CSR行動規範」に反社会的勢力に対して毅然とした対応を行うよう規定しており、従業員に周知しています。また、日頃より警察などの関連機関から情報の収集に努め、事案が発生した場合も同じく警察や法律事務所などの外部専門機関と連携して対処します。なお、お取引先様に対して反社会的勢力との関係遮断を契約条件として運用しています。

内部通報制度

法律違反、不正行為の未然防止の重要手段として内部通報制度を導入しており、通報窓口・相談窓口を整備し、通報の受付、調査の実施、是正措置の実施、通報者に対する解雇・不利益取扱いの禁止、フォローアップなど「内部通報規程」を制定したうえ、これを適切に運用しています。

知的財産権の尊重

事業を安定して継続していくために知的財産活動は重要であることを認識し、事業展開に応じた積極的な知的財産活動を推進しています。権利化を目指す知的財産権については、事業展開に応じてグローバルな対応を進めるグローバル戦略と、製造ノウハウなどの有用情報を秘匿化するクローズ戦略とを使い分けた知的財産活動を推進しています。このような知的財産活動の一環として、特許戦略協議や社内教育を行い、知的財産の創出強化と知的財産管理体制の構築を進めています。また、「知的財産管理規程」を整備することで知的財産の管理を明確にするとともに、各種発明表彰・特許表彰を充実させて発明者のインセンティブ向上にも努めています。さらに、第三者の知的財産権を侵害しないよう、監視システムを構築しています。

コーポレートガバナンスについて

経営環境の把握や経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる意思決定と適法かつ妥当な業務執行が可能な経営体制およびステークホルダーに対して公正で透明性を高めた、国際競争力のある経営を目指します。

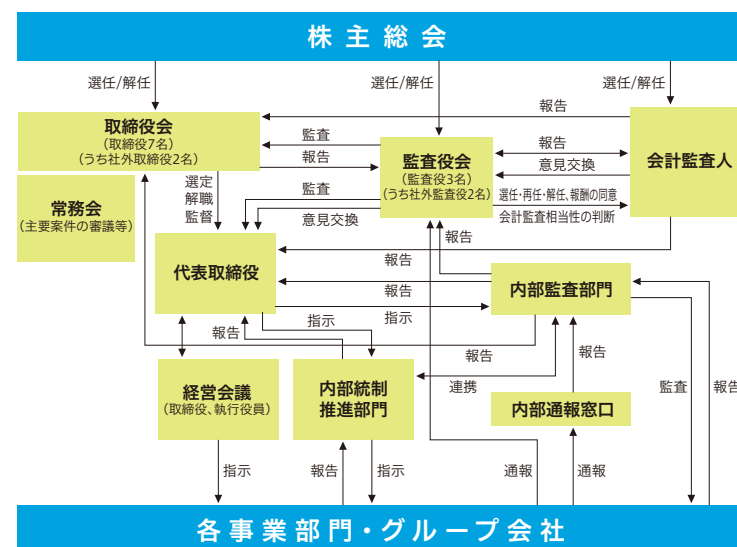
企業活動を支えているすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ長期的・継続的な株主価値の最大化を実現するため「企業価値の向上」に力を注ぐと同時に、社会的に信頼される企業を目指して「コーポレートガバナンスの強化」が必要と考えています。なお、当社のコーポレートガバナンス体制を明確にし、実効的なコーポレートガバナンスを実現させることを目的に、「大真空コーポレートガバナンスガイドライン」(URL:<http://www.kds.info/investors/management-policy/corporate-guideline/>)を制定しています。

コーポレートガバナンス体制

● 取締役会／監査役会

経営上の基本方針・重要事項の決定機能および代表取締役の職務執行の監督機能としては、会社からの独立性と財務・会計・法律の分野において専門的知見を有している社外取締役複数名を含む取締役会を、取締役の職務執行の監査機能としては監査役・監査役会をそれぞれ経営体制の基本としています。

また、監査役につきましては、取締役会その他重要な会議に出席し、独立・中立的立場から適切な意見を述べることで経営監視の実効性を図っています。さらに会計監査人を設置し、会計に関する正しい経営情報を提供し、公正不偏な立場から監査が実施される環境を整備しています。



● 社外監査役メッセージ

私が、当社の社外監査役に就任してから3年が経過しました。この間、当社の企業文化、人間関係等を通じてさまざまなことを勉強させていただきました。そして、当社の優れた技術力、創造力を維持、発展させていくために何が必要なのか、ということに従業員の目線で考えるようになってきています。

社外監査役は、客観的な視線が大切ですが、そのためには内部目線も養っていかねばなりません。

企業のガバナンス、コンプライアンスの向上に社外役員が

果たす役割が、大きくなっていると言われています。急激なスピードで変化していくビジネス環境の中で、会社の健全な発展のために少しでも貢献できればと考えています。

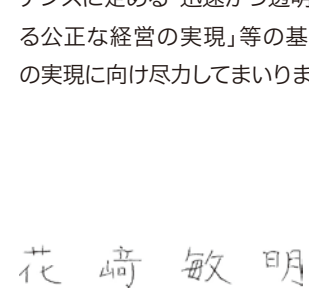


牛島 慶太

コーポレートガバナンスとは「会社が株主・顧客・従業員・地域社会等の立場を踏まえ透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組み」と定義されています。

そんな中で株主・顧客・従業員・地域社会等の視点を常に意識しながら監査役として大きな職責である、取締役の業務執行の適法性を確保することに取り組んでいます。

さらには「社外」という視点を大切にして、「社外取締役」および「会計監査人」と連携協調して意思疎通を図り、コーポレートガバナンスに定める「迅速かつ透明性のある公正な経営の実現」等の基本方針の実現に向け尽力してまいります。



花崎 敏明



お客様とのかかわり

大真空グループは、「顧客第一優先の徹底」をもとに、お客様や市場に信頼される製品の提供に努めています。品質マネジメントシステムを活用し、製品品質の向上に取り組むとともに、お客様との対話を通じていただいたご意見やご要望に対して真摯に対応し、顧客満足度の向上に取り組んでいます。

品質経営

品質理念

● 顧客第一優先の徹底

大真空の提供するすべての品質はお客様のためにあります。大真空は以下のスローガンのもと、常に顧客の品質ニーズに適合する活動を進めます。

スローガン よりよい製品を より安く より早く より安全に

● 法令、規制、顧客要求の遵守

大真空は、法令、規制要求事項を遵守し、顧客要求事項に100%適合する製品づくりに取り組みます。

三つの品質



● 仕組みのQuality

品質の国際標準規格であるISO9001 & IATF16949に適合させた Quality Management System による継続的な品質改善活動

● 技術のQuality

過去の経験から学んだ設計管理技術を新たな要素を組み合わせることで、信頼性評価に基づく良品条件による安定した生産、予防処置に重点を置いた品質改善活動

● 人のQuality

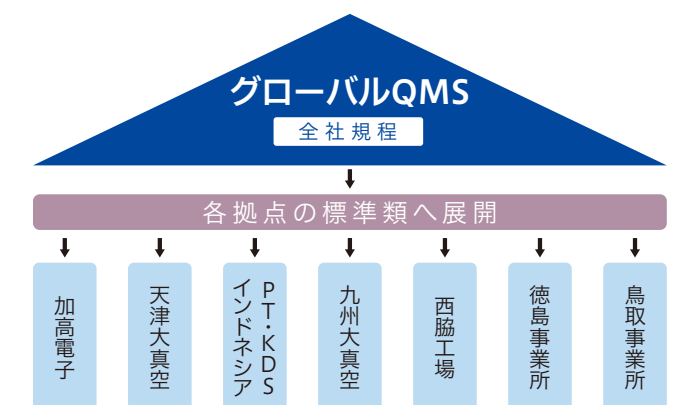
ものづくりの基本はひとづくりであり、QMS活動を通じて高い品質意識をもった人財の育成に注力

品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム(QMS: Quality Management System)は、製品品質に関する顧客満足度の向上に必要な国際規格となっています。大真空グループでは、海外生産拠点を含むすべての生産拠点で、ISO9001の認証を取得しています。

また、自動車業界向けの製品を生産している生産拠点は自動車産業のQMS規格であるIATF16949の認証を取得しており、品質マネジメントシステムを活用した製品品質の向上に取り組んでいます。

ISO認証取得状況はHPで公開しています。
(<http://www.kds.info/product-support/iso-certificate/>)



お客様とのかかわり

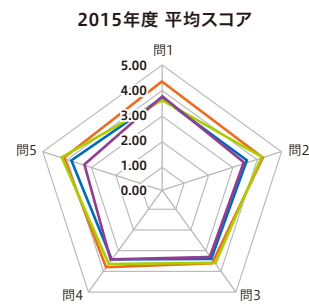
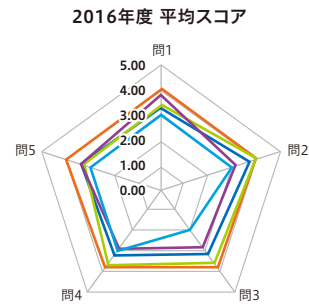
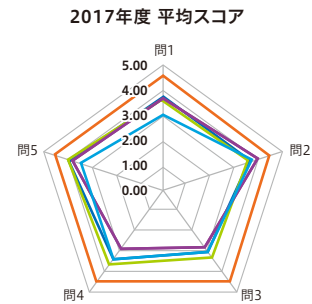
CS調査について

顧客満足度向上の取り組みとして、お客様からのストレートな声を製品・サービスに反映するために2002年からアンケート調査を導入しています。お客様から頂いた回答をもとに営業・納期・価格・技術・品質それぞれの対応状況についてSWOT分析し、対策や検討が必要な課題や強みなどを明確にし、弱みは問題解決、強みはさらに伸ばす方法を社内で協議し、継続的に改善に取り組んでいます。

市場別 アンケート結果（技術編）

- 問1. 貴社の課題やニーズに対する弊社の開発力は納得のいくものですか？
問2. レスポンスはいかがでしたか？
問3. 技術スタッフの訪問頻度はいかがですか？
問4. 技術のプレゼンテーションはいかがですか？
問5. 回路調査の対応に満足されていますか？

2017年度、通信は全項目4点以上

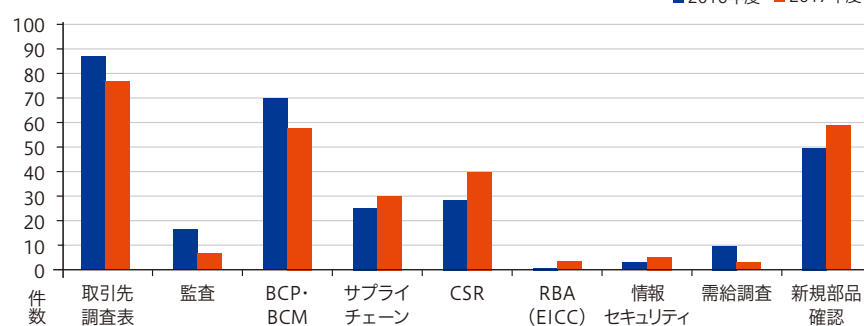


お客様からの調査対応について

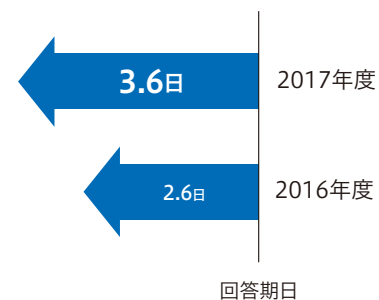
会社概況報告である取引先調査表は、決算発表前後に多くのお客様から依頼を受け、関連部門に展開し対応しています。「監査」項目についても、多くの部門が関わっているため、いずれの調査も関連部門と協力し資料を作成しています。BCP・BCMアンケートなどについては、2016年度より減少しているものの依頼件数は多い状況が続いており、サプライチェーンを含め、各社の関心の高さが伺えます。また、災害など企業活動への影響が懸念される事象が発生した場合も迅速に対応しています。

CSRアンケートやRBA(旧EICC)の「Code of Conduct」に関する調査依頼が増加傾向にあり、さらに増えることが予想されます。情報セキュリティ調査は、定期的な調査依頼となっています。新規取引の製品情報に関する部品調査依頼は増加しています。

顧客からの調査依頼対応件数



お客様の期日に対して、
2.6日前→3.6日前に回答を前倒し



● 社員の声

お客様からの調査依頼に対する期日や内容を確認し、関連部署の協力を得ながら進めています。

質問内容が多岐に渡る場合は、担当部署の振り分けに時間がかかっていましたが、質問事項のタイトルや文章と関連部署の対比表を作成することで、社内処理のスピードアップを図りました。

2016年度は、期日に対して平均2.6日前に回答していましたが、2017年度は改善を進めた結果、期日に対して3.6日前に回答できるようになりました。今後お客様からの要求に対応するため、関連部署と協力して取り組んでまいります。



営業管理課
岡本 圭介

インドネシアでの取り組み



PT.KDS INDONESIA
池田 宅史

PT.KDS INDONESIAでは、リードタイプの小型振動子およびセラミックパッケージの表面実装型水晶振動子の生産を行っています。数年前まではリードタイプが主要生産品目でしたが、お客様の小型化／薄型化などの要求に対応するためセラミックパッケージの表面実装型水晶振動子へ生産を移行してきました。以前は民生向けが主な用途でしたが、車載向けが大半を占める生産工場となり、現在に至っています。

お客様に満足いただける製品を生産・出荷するため、特に『品質』に関しては、重要課題として日々改善活動を実施しています。今までの品質改善活動は、日本人が主となり現地スタッフへ指示・指導を行っていましたが、現地スタッフが自発的・能動的に活動ができるようにインドネシア人副社長をリーダー、日本人はアドバイザーとしたZero Defect改善活動を2017年12月より進めています。

このZero Defect改善活動の中には、品質改善活動の基本となる、

- ①問題を後工程へ流さないための関所とモニター
- ②問題発生した現場・現物・現実を知る
- ③問題を継続発生させないための即日暫定対策、真因を調査し恒久対策
- ④再発させないための標準化への落とし込み
- ⑤CFチームによる日々の進捗確認会議

などがあります。



問題を調査する中で、作業者に依存する作業や作業者のバラつきによる原因も判明しており、自動化・半自動化などの検討を行うとともに作業の標準化を図るため、作業者の動作分析から詳細作業指導表への展開も並行して進めています。



づくりのために、問題の深掘り方法など継続して指導を行い、Zero Defectの目標達成に向けた継続改善活動を実施してまいります。

今のところ、現地スタッフの自発的・能動的な品質改善活動により、工程内の問題発生件数はゼロに至っていないものの大きく減少しており効果は出ています。我々の目標はZero Defectですので、工程で品質を作り込み、工程内で発生した問題を再発させないためにも問題発生時の真因を追究し、恒久対策を実施しなければなりません。予想した対策効果が出ていない項目が一部あります。現地スタッフがさらに自発的な改善活動を行える環境

● 社員の声

1991年 PT.KDS INDONESIAに入社以降、品質部門で品質業務に携わり、水晶の加工や組み立て工程を経験し、現在は品質保証グループマネージャーとして、お客様との窓口になっています。また、環境システムに関する研修を受け、EMS(環境マネジメントシステム)管理責任者となり、ISO14001認証取得・継続に関する業務も並行して行ってきました。

今後は、EMSの構築と管理を行う品質部門スタッフを育成するとともに、インドネシア政府とお客様からの要求にお応えするため、品質・環境だけでなく労働安全衛生に関する教育も行い、全従業員がHSE(安全衛生、環境)の意識を共有できるようにしたいと思います。



PT.KDS INDONESIA
Endaria Perangin Angin

お取引先様とのかかわり

大真空グループでは「信頼」を軸に、お取引先様と一体となって価値創造を行い、相互的利益の創出を通して社会に貢献できるパートナーシップを築くことを目指しています。

大真空の購買基本方針

I. パートナーシップ

あらゆるお取引先様と良きパートナーシップを築き、相互理解と信頼関係の樹立・維持向上を図っていきます。

II. 開放・公正

国内外のすべてのお取引先様に対して、平等に開放し、自由な競争の原則にもとづいた機会の提供をいたします。

III. 社会的責任

コンプライアンス、品質、安全性、環境保全、安全衛生、人権、労働などに配慮し、社会に貢献できる役割を積極的に果たしていきます。

サプライチェーン全体でのCSR活動

大真空グループでは、サプライチェーン全体でCSR活動を進めるため、購買基本方針の社会的責任をお取引先様に理解していただき、お取引先様においても、CSRに配慮した活動をお願いしています。

近年企業を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化しており、利益を追い求めるだけでなく、社会の構成員として、法令遵守はもちろん人権や環境にも配慮し、消費者や従業員、地域社会などのステークホルダーに対して責任を果たすことを求められています。サプライチェーンの観点からすると、社内の取り組みだけではなく、お取引先様のご理解・ご協力を得て初めて、CSRを推進できていると考えています。そこでCSR調達の考え方をお取引先様と共有し、より良いCSR活動を推進するために、「CSR調達ガイドライン」(URL:<http://www.kds.info/company/csr/>)を公表しています。

サプライヤーとの公正で良好な関係づくり

大真空グループでは、毎年主要なお取引先様をお招きして事業説明会を開催しています。大真空グループの経営方針や、生産・製品戦略、市場・技術動向など、当社とお取引先様を取り巻く環境について説明し、パートナーシップの強化を図っています。

私たちは、ガイドラインに「優越的地位の濫用の禁止」を明確に謳い、調達取引においては、法令はもちろん、企業倫理を遵守して、誠実に業務を遂行します。これは、会社存立の大前提であるとともに、経営の根幹を成すものであると認識しています。

調達取引業務に大きく係わる、「下請代金支払遅延等防止法(以下、下請法)」においては、法令やその精神をより確実なものにするため、社内規程の整備(取引先契約書規程、下請法対応手順書)に努めるほか、該当業務に配属時、下請法の社内研修を受けることや行政機関、関連団体組織が開催する講習会、セミナーの受講などあらゆる機会を活用し、社内への徹底を図っています。

化学物質規制への対応

環境に配慮した製品を社会に提供するため、有害物質を含まない部品・原材料の調達に取り組んでいます。化学物質に関する規制は、欧州RoHS指令を始め、ELV指令、REACH規則など、世界各国で定められ、年々強化されています。大真空グループの要求事項を定め、お取引先様と連携を取りながら、グリーン調達を行っています。

紛争鉱物に関する取り組み

2010年7月に可決された米国金融規制改革法により、コンゴ民主共和国(DRC)およびその隣接国で産出される、武装グループの資金源となる鉱物(金、タンタル、錫、タングステン)の調達関連情報を調査・開示することが求められています。大真空グループでは、次の紛争鉱物に関する方針を掲げ、活動を実践しています。

コンゴ民主共和国(DRC)もしくはその隣接国の武装グループに直接または間接的に資金提供または利益供与する可能性のある鉱物の調達を回避し、これらの不使用に努めます。

当社では、サプライチェーンの川中企業として、業界共通の紛争鉱物報告テンプレートを用いて、お取引先様へ調査依頼し、紛争鉱物に関する情報をとりまとめ、お客様に情報伝達を行っています。2016年度、2017年度は国内・海外すべてのお取引先様への調査を行い、武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」の使用がないことを確認しています。

経営指標調査、BCP/CSR管理体制チェックシートについて

お取引先様への経営指標および危機管理体制チェックシートに2017年より、CSRに関する内容を盛り込みました。サプライチェーンの観点から考えると、CSR活動を行っていくためには、自社の取り組みのみならず、お取引先様のご理解・ご協力がなければ実現できないものと考えています。自社のCSR推進についての考え方をお取引先様と共有することで、より良いCSR活動を推進することを目的とし、アンケートにて財務情報をはじめとするお取引先様の企業情報を収集・分析しています。お取引先様に対して、お取引に関する満足点や不満点、今後のニーズなどに関する調査を実施し、調査によって得られた評価を確認しながら、日頃の事業活動を改善しています。

購買部門ではお取引先様とお互いを理解し、相互に高め合うことで、信頼関係を育み公正公平なパートナーシップを確立できるように努めています。

◆ 社員の声

新規お取引開始時と、継続中の主要材料お取引先様へ年一回、当社のCSR行動規範について把握いただくとともに、お取引先様のCSR活動の体制有無を確認しています。

また、当社CSR調達ガイドラインを制定した年に、お取引先様のCSRの仕組みの構築と運用管理の実態についてサプライチェーンCSR調査(人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、安定供給、社会貢献)を実施いたしました。近年、想定外の災害や事故の発生が増加しておりますので、重要性を感じています。

調査票は理解いただきやすく、回答業務に負担の少ないフォームに改善するよう心がけており、当社としましてもお取引先様の最新内容の把握が効率的に行えるよう、さらなる改善の取り組みを行ってまいります。



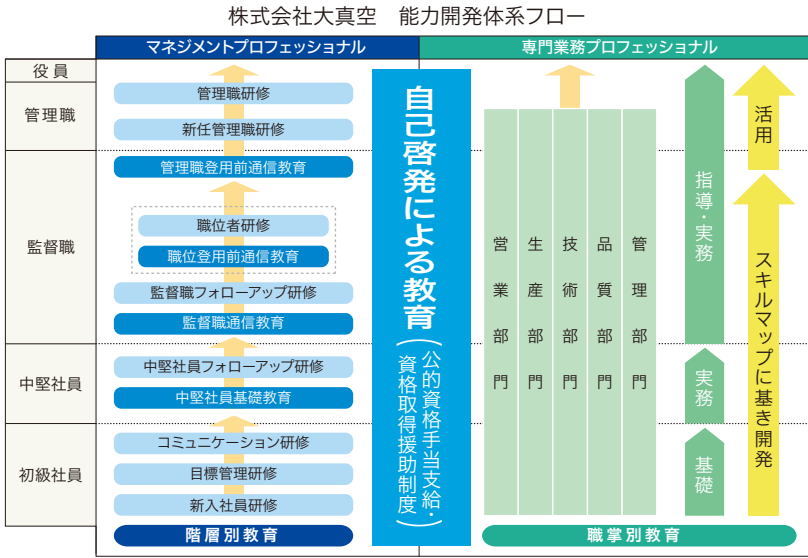
購買課
寺川 将人

チャレンジする企業風土づくりと人財育成を目指して

目覚ましいスピードで進化する現代社会をリードし、より便利で快適な未来社会を実現するための一翼を担うべく、主体的に自己を高めることができる人財を育成し、よりレベルの高い仕事にチャレンジできるような仕組み創りと働きやすい職場創りに向け、弛まぬ努力を続けていきます。

人財育成の仕組み

マネジメントを基礎から体系的に学ぶ階層別教育、専門業務プロフェッショナルを育成するための職掌別教育という二つの柱があります。それらに加え、自己啓発（語学、専門学習など）の支援制度や資格取得を促進するための援助制度により、個々のキャリア形成のサポート体制も充実させています。「能力開発の主体は自身である」をコンセプトとし、受け身ではなく主体的に自己を高めることができる制度設計をしています。



多様な人財が活躍できる会社を目指して

グローバル企業として、多種多様なニーズに応えるために、外国人の雇用も行い、積極的にさまざまな価値観、考え方を取り入れるようにしています。また、女性の活躍推進を図るために、社内では女性が働きやすい職場作りに取り組んでおり、平均勤続年数では女性が男性を上回っています。外国人従業員や女性従業員が、仕事にやり甲斐をもってその能力を十分に発揮できるような雇用環境の整備を行うとともに、今後のロールモデルとなる幹部候補者の育成を目指します。

当社では2015年6月に、国が推奨する限定正社員について早期に導入しました。ワークライフバランスに適応し、優秀な人財の確保を目的とした新たな雇用形態であり、勤務地と職種が限定できる仕組みとしております。地元で慣れた仕事を続けたいという従業員にマッチングした制度ですが、責任ある仕事にチャレンジしたいという方には正規従業員へのコース転換によりキャリアアップできる仕組みもあり、実績もあります。既に何度か制度見直しを行っておりますが、より良い制度とするためさまざまな意見を取り入れながら今後も制度改定を続けていきます。

● 社員の声

入社後、会計業務を担当していましたが、業務年数を重ねていく中で、管理業務にも携わるようになりました。担当業務の幅が広がることで、知識や理解も深まり、仕事だけでなく人間関係に対する考え方など、自身の大きな成長に繋がっていると感じています。困難な課題に直面することもありますが一歩ずつ処理し解決していくことに達成感を覚えます。そういった機会を与えていただいていることはもちろん、新しい業務を任せただけなことにも深く感謝しています。また、上司や同僚にも恵まれ、活気ある職場で信頼できる仲間とともに働けることに喜びを感じています。

今後も積極的に業務に取り組み、さまざまな経験を通して会社や地域に貢献できるよう頑張ります。



DAISHINKU(HK)LTD.
Brenda Mak

職場環境づくり

● 自己申告制度

本人のキャリアに対する考えや自己啓発の取り組み内容を考慮し、新たな業務にチャレンジできる機会を設けています。

● 従業員の健康管理

年1回の定期健康診断の中で、問題の見つかった従業員に対しては、産業医とも協力しながら精密検査や治療を勧めることにより、健康の維持増進を図っています。

● メンタルヘルス・ストレスチェック

ストレスチェックは、法に基づき毎年1回実施するだけでなく、その結果を分析し、業務負荷の平準化や従業員へのフォローを行い、心の安全と健康の維持増進を図っています。

● 育児・介護休業制度

法律を上回る制度を整備し、家庭と仕事の両立を支援しています。
育休の取得率、復帰率も高く、女性従業員も長期間働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

大真空グループ国内
拠点における女性の
育休取得率：**100%**
復 帰 率：**100%**

● 社員表彰制度

功績をあげた従業員を毎月表彰し、特に大きな功績については創業記念行事で表彰することで、モチベーションアップを図っています。中には入社2年目で表彰された従業員もあり、若手従業員の活躍も目立ってきています。

● 労働安全衛生管理

従業員が元気な姿で出勤し、元気な姿で帰宅する。これは企業として当たり前の職場環境ではありますが、労働災害の発生要因は常にどこかに潜んでおり、これを受容可能なレベル、つまり労働災害が発生しにくい状態まで引き下げるのが企業の課題です。

当社では、労働安全衛生マネジメントシステムの構築を目指し、その主体となる全社労働安全衛生委員会を組織しています。労働安全衛生マネジメントシステムは、危険性または有害性の低減、安全衛生と経営の一体化、ノウハウの継承、継続的な実施を可能とする仕組みです。これまで各拠点の安全衛生委員会は独自で労働安全衛生の水準向上に取り組んでおりましたが、当社グループ統一方針の基で、強い推進力を以て労働安全衛生の底上げを図っています。他拠点の問題に関しても、互いに知恵を出し合い問題の解決を図るとともに、自拠点においてはそれを教訓とし、予防に努めます。このような取り組みを通し、従業員が毎日安心して働けるよう、そしてご家族のみなさまが毎日安心して送り出せるよう、安全で快適な職場作りを目指します。

トピックス

研修施設紹介（鳥取研修所）

教育体制・キャリア開発体制をより一層充実させるため、2014年4月に宿泊設備を備え、合宿研修が可能な研修施設を鳥取に竣工し、さまざまな研修を行っています。管理職や職位者向けに、単なる知識付与の研修ではなく、色々の問題の議論や各部門の交流により連携を強化する合宿研修も行っています。

また、海外から技能実習生を受け入れ、最先端のものづくりを学ぶ機会を設け、ローカル幹部の人財育成にも取り組んでいます。

【研修実績】 ※一部抜粋

- ・新任管理職研修（1泊2日 新規登用者）
- ・管理職研修（1泊2日 毎年全管理職対象）
- ・職位者研修（1泊2日 新規登用者）
- ・新入社員合宿研修（1泊2日 新入社員）
- ・製造社員研修（毎月2日間 製造工程担当者・職位者）
- ・海外技能実習生（3カ月間 海外拠点従業員・マネージャー）



大真空グループ環境方針・環境理念-

社会貢献

大真空グループは環境と調和する環境保全活動を通して、持続的に発展可能な社会の創造に貢献します。

法令、規制の遵守

大真空グループは法令・規制要求事項を遵守し、環境に配慮した商品開発に取り組みます。

-方針-

大真空グループは、製品の開発、製造および販売等に係わる企業活動すべての領域において、経営方針に基づき社内外から信頼される環境マネジメント活動を推進していきます。

- 1

環境負荷物質の適正管理と削減に取り組み、環境に配慮した省エネ・省資源に主体的に取り組みます。
- 2

資源の有効利用と環境汚染防止のため、廃棄物の発生抑制、再使用、リサイクルなど廃棄物の削減と適正処理に取り組みます。
- 3

地球温暖化防止のため、省エネルギー活動およびCO₂排出削減に取り組みます。
- 4

コンゴ民主共和国(DRC)もしくはその隣接国の武装グループに直接又は間接的に資金提供又は利益供与する可能性のある鉱物の調達を回避し、これらの不使用に努めます。
- 5

環境に関する法律、基準、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
- 6

この環境方針に基づき環境目標を設定し、活動を推進するとともに環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
- 7

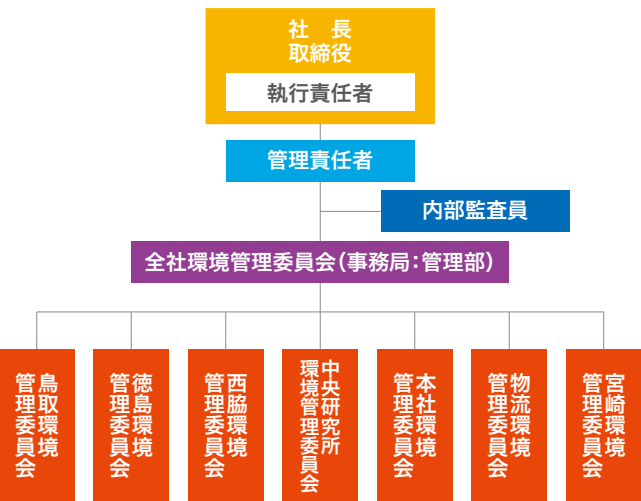
環境方針を全従業員および当グループの活動に従事する全ての人に周知し、教育訓練や啓蒙活動を通じて環境保全に対する自覚と意識の向上に取り組みます。
- 8

環境保全活動に関する情報を公開します。

組織の体制

環境マネジメントシステムを効果的に推進するために、拠点ごとに環境管理委員会を設置し、全社を統括する組織として全社環境管理委員会を設置しています。全社環境管理委員会では大真空グループにおける環境活動の方向性、活動実績について審議・決定を行い、PDCAサイクルを効果的に運用し、継続的な改善に努めています。

● 環境管理委員会組織図



内部環境監査

環境マネジメントシステムを効率よく運用していくうえでは、環境管理が適切に運用されているかを確認し、問題点を是正することが重要です。

大真空グループではマネジメントシステムのチェック機能として、内部環境監査を年1回実施しています。内部環境監査結果は経営層に報告され、有効性・改善点を審議し、環境マネジメントシステムの継続的改善に繋げています。

また、適切な内部監査を実施するために、内部環境監査員を養成し、社内資格要件を満たした者を選任しています。

ISO 認証取得状況

大真空グループでは国際標準規格のISO14001の認証を取得しています。2000年の認証取得当初から国内拠点で統合した認証を取得し、大真空グループ全体でのマネジメントシステムの運用をしています。

また、海外生産拠点である天津大真空有限公司、PT.KDS INDONESIA、加高電子股份有限公司においても、ISO14001を認証取得し、国内と連携を取りながら、環境保全活動に取り組んでいます。現在、各拠点においてISO14001:2015改訂版へ更新しています。

廃棄物のリスク管理

当社の事業活動に伴い排出される産業廃棄物は社外の処理業者に委託しています。産業廃棄物の処理における排出事業者の責任は重要であり、当社では廃棄物の処理・管理のルールを定め、処理委託先の確認を行っています。

処理委託する際には、事前に現地パトロールを行い、また処理委託後も毎年現地パトロールを実施しています。

PCB廃棄物の適正管理

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は生体に対する毒性が強く、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、2027年3月31日までに適正な処理を行うことが義務付けられています。

大真空グループでは、高濃度PCB廃棄物の処理は完了しました。微量PCB廃棄物の処理が残っておりますが、適正管理と早期処理に努めてまいります。

緊急時の対応訓練

当社では事故や災害時の対策として、対応手順をまとめた「緊急時対応プログラム」の制定、緊急対応用具の設置をしています。

環境月間の6月に緊急事態・事故の対応訓練を実施し、応急措置手順・連絡経路・用具の設置場所や数量などが適切にチェックし、緊急事態・事故への体制を整えています。



徳島事業所 薬品流出防止訓練

環境負荷の現状

製品開発や設計、製造、販売それぞれの段階で、水、エネルギーおよび原材料などさまざまな地球上の資源を利用しています。事業活動に伴うさまざまな環境負荷を把握し、低減に努めています。

INPUT

電力	('16)	131,826	MWh
	('17)	134,965	MWh
A重油	('16)	1,087	kL
	('17)	915	kL
都市ガス	('16)	352	km ³
	('17)	380	km ³
灯油	('16)	2	kL
	('17)	3	kL
LPG	('16)	5,466	kg
	('17)	6,583	kg
水	('16)	966	km ³
	('17)	919	km ³

OUTPUT

CO ₂	('16)	76,437	t-CO ₂
	('17)	77,767	t-CO ₂
排水	('16)	804	km ³
	('17)	765	km ³
発生量	('16)	1,408	t
	('17)	1,305	t
処分量	('16)	910	t
	('17)	839	t
リサイクル量	('16)	497	t
	('17)	466	t
製品	水晶振動子		
	水晶発振器		
	水晶フィルタ		
	光学製品		
	ハーメチックシール		
	MEMS発振器		

環境パフォーマンスの改善

製品の設計から製造・販売までのプロセス全体を通じて、省エネルギー活動の推進による地球温暖化防止対策、廃棄物削減活動などに取り組んでいます。

地球温暖化の防止

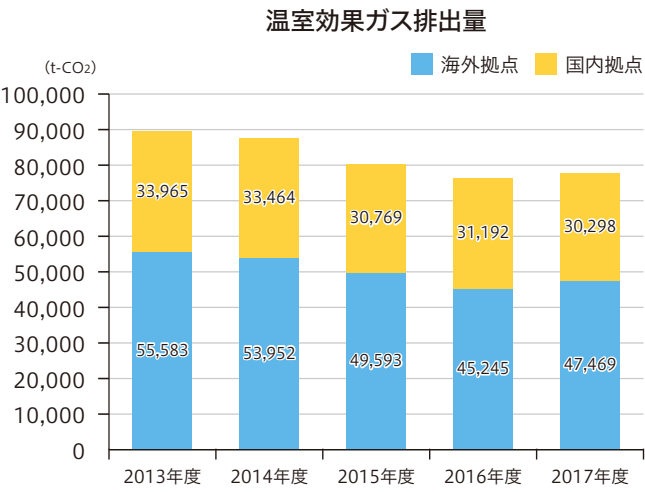
大真空グループでは、二酸化炭素(CO₂)など温室効果ガス排出量の削減活動を推進しています。

2017年度は、前年度と比較して1.7%増加していますが、中期的に見ると減少傾向にあります。

生産拠点を中心に、省エネルギータイプの設備へ切替、照明のLED化など積極的に改善を実施しています。

また、省エネルギーパトロールや、教育訓練を通じて、従業員の省エネ意識の向上にも努めています。

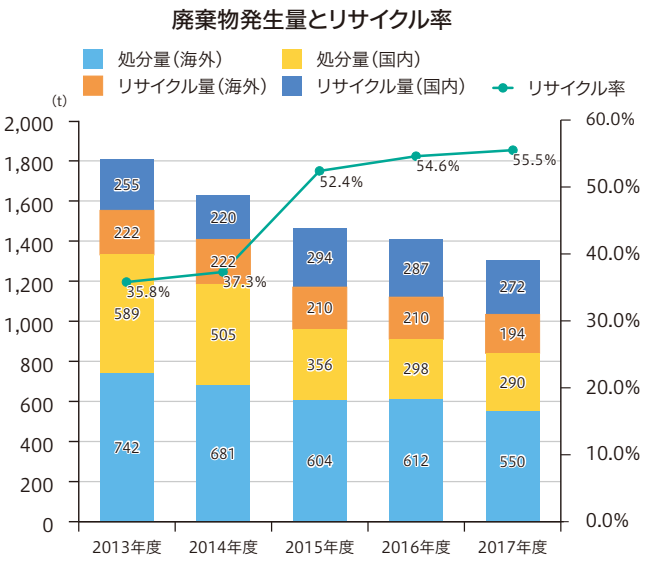
海外拠点を含めた大真空グループ全体での省エネ活動を進めてまいります。



廃棄物の削減・資源のリサイクル

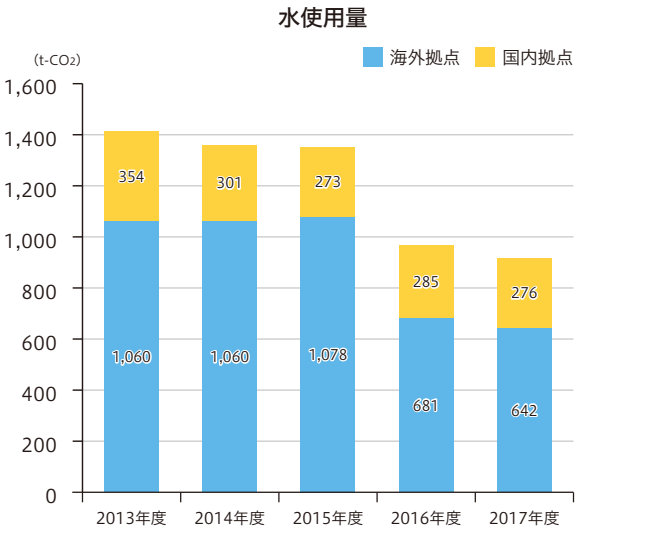
大真空グループは、廃棄物の埋め立て・焼却処分量の削減と、廃棄物の発生量そのものを抑える活動に取り組んでいます。梱包材の再利用や、有価物化を進めた結果、廃棄物発生量を抑制することができました。

当社で発生する廃棄物の約8割は汚泥が占めています。生産工程の改善に伴う薬品使用量の削減や、排水処理施設の改造・処理フローの見直しにより汚泥の発生を抑制する活動に取り組んでいます。また、最終埋め立て処分していた汚泥を有効活用するためリサイクル化を進めています。



水資源の有効利用

大真空グループでは、生産活動に伴い多くの水資源を利用しております。2016年度に生産品目の見直しをおこなった結果使用量を削減することができましたが、生産品目の見直しを除くと、使用量はほぼ横ばいとなっております。節水の徹底や循環利用の検討など、さらなる対策に取り組んでまいります。



トピックス

省エネにつながる原石大型化

現在、当社では4インチまでの水晶の原石を育成しており、今後は6インチの原石育成を計画しています。原石は原価に占める半分以上が電気代になるため、この電気代を抑えることが省エネにつながります。

1008サイズの水晶片を作ることを想定し、4インチから6インチに原石を切り替えた場合、水晶片1枚当たりでは11%の効率化が見込めます。一方、原石の大型化により育成日数が増えることから電気代が増加し、原石が大きくなる分一本当たりの価格は増加しますが、原石大型化によるウェハの取れ数アップ、ウェハの大判化による水晶片の取れ数のアップなどの効果により、水晶片1枚当りの電気代としては約23%削減されることになります。



製品における環境配慮

当社の製品は、スマートフォンやタブレットPCなどの情報通信機器や、AV機器、カーエレクトロニクスなど、私たちの生活に身近な電子機器に使われています。製品の設計・開発段階において、「省電力化」、「小型化」、「化学物質の適正管理」をキーワードに、環境に配慮した製品を提供することに努めています。

● 環境配慮型設計について

省電力化

当社製品の消費電力を小さくすることで、これらがパソコンやスマートフォンをはじめとする電子機器を使用する際の消費電力を減少させることができ、CO₂排出量の削減に寄与しています。

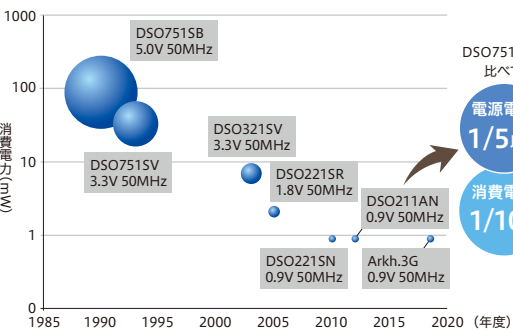
小型化

製品の小型化により資源の使用量を削減することで、当社製品を搭載する基板の省スペース化にも繋がります。また、輸送に伴うCO₂排出量の削減にも繋がり、サプライチェーン全体の資源の削減に貢献しています。

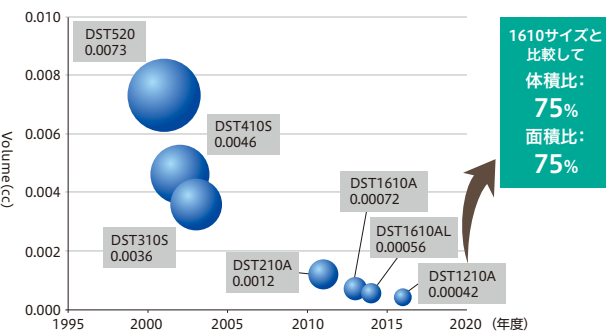
化学物質の適正管理

製品の設計・開発段階の検証において、構成部材に環境負荷物質が使用されていないことを確認しています。また、量産においても定期的にXRF分析により環境負荷物質の有無を確認しています。

低消費電力化の変遷



小型化のトレンド（音叉型水晶振動子）



● Arkh.3Gシリーズの開発

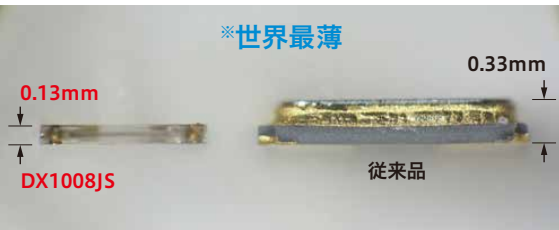
Arkh.3Gシリーズは、小型化・薄型化と信頼性の両立、さらには異物不良というリスクを大きく低減する高品質を追及した製品ですが、同時に環境負荷の低減にも貢献できる製品です。

例えば、従来の製品では水晶片とセラミックパッケージの接続に樹脂製の導電性接着剤を使用しており、乾燥などの処理において200℃～300℃という高温下に数時間曝すため、加熱に相当なエネルギーを必要とします。しかし、Arkh.3Gシリーズは枠体と振動部が一体構造となるデザインを採用しているため、樹脂製の導電性接着剤を使用せず、加熱処理が不要となります。また、樹脂製の材質を起因とする経時変化による影響が生じないため、Arkh.3Gシリーズをご使用いただく機器の製品寿命に対しネックとなることがありません。

このように、樹脂製の導電性接着剤を使用しない設計は生産時のエネルギーを削減できる直接的な効果と、水晶デバイスを使用いただく機器の製品寿命に寄与できる間接的な効果が期待できます。

また従来は、1個単位でデバイスを組立てていくプロセスですが、Arkh.3Gシリーズではウェハレベルで組み立てを行い、最後に分割するプロセスを採用しているため、フロア面積当たりでの生産性は約2倍向上します。これは同じ生産数量に対し、空調や照明を必要とする面積が半分になることを意味しますので、ここでもエネルギー使用量を低減することが可能となり、さらに製品サイズの小型化・薄型化は梱包材料の削減や、輸送時に消費するエネルギーも低減することができます。

このように、Arkh.3Gシリーズがより効率的でクリーンなICT社会の実現に少しでも寄与できることを期待しています。



※2018年12月現在

株主・投資家のみなさまへ

コーポレートガバナンスの強化や適時・適切な情報開示などにより、株主・投資家のみなさまとのコミュニケーション体制向上に努めています。

株主・投資家のみなさまとのコミュニケーション

● 株主のみなさまとのコミュニケーション

当社グループでは、株主総会を株主のみなさまと直接意見交換ができる建設的な対話の場であることを認識し、株主総会における権利行使に係る適切な環境の整備に努めています。招集通知を株主総会開催日の約3週間前に発送するとともに、発送日より前にWEB開示を行い、株主総会議案について十分にご検討していただけるよう取り組んでいます。また、株主のみなさま向けの報告書を年2回発行しています。

● 投資家のみなさまとのコミュニケーション

機関投資家や証券アナリストのみなさまと、当社グループの経営成績や経営方針・事業戦略を共有し、理解をより深めていただきたく、東京と大阪で年2回の決算説明会を開催、個別取材にも積極的に対応し、継続的なコミュニケーションを図っています。

また、迅速かつ公平な情報開示に努めており、決算説明会資料やFACT BOOKなどの財務資料、適時開示資料をホームページ(URL: <http://www.kds.info/investors/>)に掲載しています。



今後も株主・投資家のみなさまに当社グループへの理解を深めていただけるよう、努めてまいります。

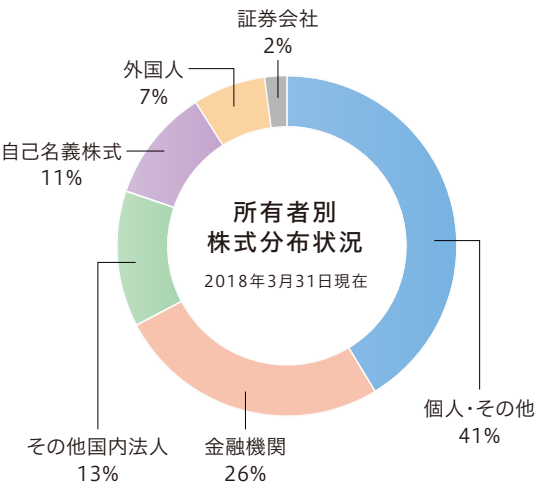
配当政策

当社では会社競争力の維持のため、企業体質の強化などを総合的に勘案しながら、株主のみなさまに対して利益還元として安定的な配当を継続することが重要な基本方針と考えています。

株式の状況

2016年10月1日付で株式併合（5株を1株に併合）および単元株式数の変更（1,000株を100株に変更）を行いました。2018年3月31日現在の発行済株式の総数、単元株式数は以下の通りです。

発行済株式の総数：9,049,242株
単元株式数：100株



地域社会とのかかわり

社会貢献活動やコミュニケーション活動を通じて地域社会と信頼の絆を深め、これからもみなさまに愛される企業を目指します。

「愛心園遊会」に参加



加高電子股份有限公司
陳 菁微

加高電子股份有限公司では数年前から忠義基金が主催する愛心園遊会(チャリティーイベント)に毎年参加しています。愛心園遊会で集まった収益は助けを必要としている子供達の医療費や支援施設の資金として役立てられており、2017年5月にも台北の花博公園で行われた「愛你一起童舞同樂」に参加しました。

愛心園遊会には年々参加企業が増えており、今回は100社以上の企業が参加しました。当社からは会場案内のボランティアやバザー担当を含め、約20名が参加しましたが、会場全体がまるで家族のような優しい雰囲気に包まれており、バザーのブースでも笑顔と笑い声が絶えることがなく、訪れていただいたみなさまとコミュニケーションを深めることができました。

また、当社では社外だけでなく自社でもイベントを主催し、バザーの売上や社内で募集した日用品の寄付を行っています。今後も引き続きこのような活動を通して、従業員のCSRに対する意識を高めるとともに、地域社会にさらなる貢献をしてまいります。



「クリーン作戦」を実施

毎年11月に社会貢献活動の一環として、本社および物流センターの環境管理委員会が合同で、地域美化活動「クリーン作戦」を実施しています。

クリーン作戦は2006年から実施しており毎年約40名が参加、物流センターを起点に当社最寄り駅までの通勤路を5ブロックに分けて、空き缶・空き瓶、タバコの吸殻、その他のごみを燃える物と燃えない物に分別しながら拾い集めています。地域のみなさまの日々の活動もあり年々ごみは減少していますが、駅周辺はまだ

まだポイ捨てごみが目立ちます。私たちも普段の通勤などで利用させていただいているということもあり、毎回念入りにごみを集めるようにしています。

年に1度のクリーン作戦ではありますが、実施当日には地域のみなさまより「ごくろうさま」などと温かい声をかけていただくこともあり、非常に気持ち良い活動ができています。これからも継続して取り組んでいくことにより、地域美化への貢献だけでなく、地域のみなさまとの交流も深めていきたいと思ひます。



生産管理課
武田 稔

「企業見学」を実施



天津大真空有限公司
林 邦春

中国の大学では、授業の一環で社会研修として企業見学を実施します。天津大真空では、以前からシステム開発などで交流のある天津大学から見学の打診があり、電気関係を専攻している学生5名を受け入れました。

企業見学は2日間にわたって行いました。1日目は、企業には激化する市場競争に勝ち抜く機動力や判断力に加え、法令遵守、社会的公正、環境保全といったCSRを遂行するためのコーポレートガバナンスの体制や仕組みについて説明しました。そして2日目には、製品紹介および製造工程を見学し、当社の製品が製造工程でいかに厳密な管理のもと製造されているのか、どのような製品に使用されているのかなどを説明しました。

2日間という短い研修でしたが、大学とは違うガバナンスシステムや、普段目にするのしない製造工程の見学は、今後社会に出る際の大変有意義な経験となったとの感想をいただきました。当社としても学生のみなさんとふれあうことができ、また、新たな気づきを得ることができる貴重な機会であることから、今後も積極的な受け入れを継続していくとともに、地域社会へ貢献してまいります。



「事業所見学会」を実施

2017年12月、徳島事業所では県立鴨島支援学校から「社会と接する機会を生徒に与えたい」という要望を受け、社会見学の一環として事業所見学会を実施しました。

当日は事業所内を見学し、大真空という会社は何を作っている会社なのか、製品は何に使われて、どのように社会に役立っているかなど、実際の製品を材料の段階から、「見て」、「触って」、体験していただきました。生徒

からは、次から次へと質問があり、特に会社ではさまざまな仕事が存在することに興味をもたれているようでした。

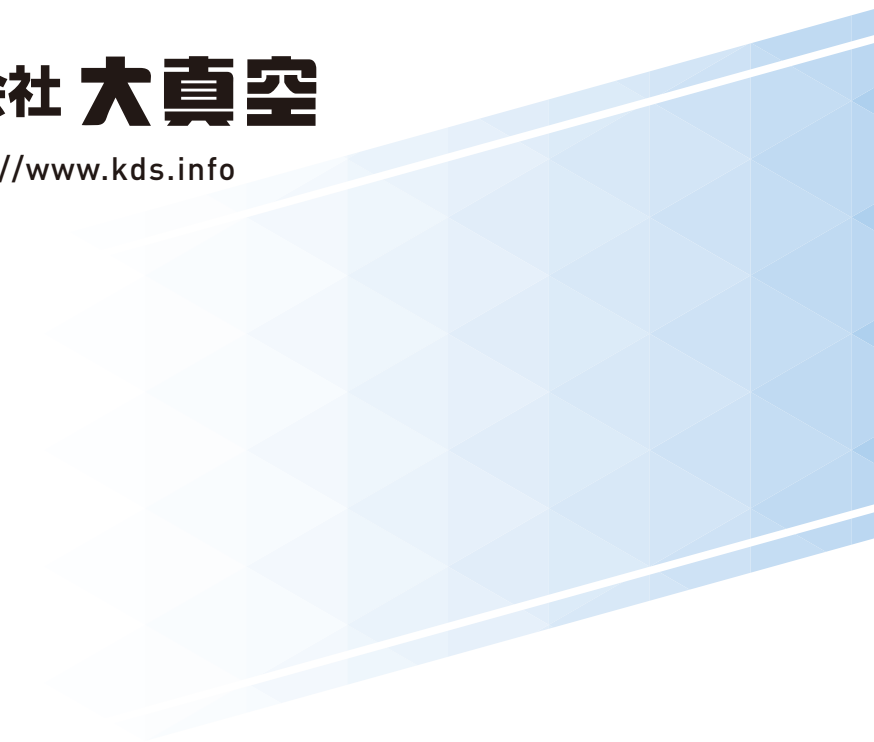
県立鴨島支援学校とは、大真空労働組合が2002年より毎年行っているサンタクロース訪問で交流がありましたが、今回の社会見学の申し込みは事業所として初めてであり、できるだけ子供にも分かるように説明するにはどうすればよいかなど、戸惑うこともありましたが、見学中、目を輝かせていた生徒の様子を見ていて来ていただいて本当に良かったと心より思いました。今後も事業所見学を実施するなど、地域のみなさまと交流を深め、社会に貢献し続けてまいります。



徳島事業所
尾田 賢治

株式会社 大真空

<http://www.kds.info>

A decorative graphic element consisting of a series of overlapping blue triangles and polygons, creating a geometric pattern that extends from the right side of the page towards the center.